

生涯をかけるテーマ～豊かな人生を送るために～

「定説」と違うことをやってみる。その勇気が新たな道を切り開く。第一線で活躍する科学者たちは、どう挫折を乗り越え、「今までにないもの」を生み出してきたのか。たくさんの人生を知ることが、自分自身を豊かにし、自分の仕事や人生を見つめ直すうえで、新たな視点をもらえる。これからの未来を担う子どもたちへ、自分の人生を豊かなものにしたいすべての人たちに読んでいただきたいと思ひ特集を組みました。

●最相葉月『理系という生き方 東工大講義

生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』ポプラ社

「私はただ、限られた時間の中でロールモデルを提示しただけのことですが、（中略）彼らが何に迷い、何に苦しみ、どんな人に出会い、いかに決意したかを知ることが、きれいごとばかりではない人生の実質について考えるきっかけとなったのであればうれしく思います」（『理系という生きかた』P347 あとがきより）



目次

生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか ガイダンス 3

1 生物はなぜ光るのか 下村脩の研究人生 28

最初はエンジニア志望だった/三人の師/人生最初の分岐点/師が反対することをやってみる/一日五〇〇匹のクラゲを採取/さらに不思議なことを追い続ける/役立つかよりも真理の探求/最初におち当った困難から逃げない

2 感染症に賭ける ゲスト 山内一也 48

どのようにワクチンが生まれたのか/サイエンスとしての免疫学のスタート/牛疫のワクチンを開発したのは日本人/将来何になるか考えたこともなかった/やりたいことをやってみる/ワクチンを作るのは肉体労働/なぜ無菌ブタが作られたのか/スローウイルス研究/人獣共通感染症の時代/エボラ出血熱を日本では研究できない/遺伝子工学の時代へ/動物福祉を考える/バイオセーフティーとバイオハザード/ウイルス学とともに半世紀を過ごしてきた/エボラ出血熱の流行を前にして

3 偉人伝から遠く離れて マリー・キュリーと弟子・山田延男 86

マリー・キュリーとその家族/伝記で明らかにされた新事実/マリー・キュリーの弟子ノブ・ヤマダ/山田延男からの手紙/最初の日本人研究者だった

4 原子核物理から心理の道へ ゲスト 佐々木玲仁 100

科学的に説明できないのになぜ効くのか/絵で何がわかるのか/どのように科学的に見るのか/南極越冬隊員の心理研究/へこたれないでいるための心構え/紆余曲折の道のり/一つとして同じものはない/自分の「色」は自然に出る

5 遺伝子工学と知らないでいる権利 ウェクスラー家の選択 122

遺伝子検査の中身/女優の決断/ウェクスラー家/ハンチントン病とは/当事者と家族の財団を設立する/村全体を調査したヴェネズエラ・プロジェクト/知らないでいる権利/遺伝病財団の行動力から生まれたもの

6 禁断の不均衡進化説 ゲスト 古澤満 149

進化論の歴史/生物に有利な変化はほとんどない/進化に興味をもった理由/ロールスロイスとトラクター/DNAの変異はそもそも不均衡/真実はシンプル/美しくなければ進化ではない/やりたいことを頭の中に浮かべておく

7 実践ショートショート 星新一と要素分解共鳴結合 ゲスト 江坂遊 175

どうしたら他にないものを発想できるか/江坂劇場はじまりはじまり/実践・要素分解共鳴結合/アイデアは明後日から取ってくる/人間は何をおもしろがるか/落語とプログラム大好き少年/原子力のシステムとショートショート/サイバーモール草創期/二足のわらじ/やり続けるしかない

8 空白の天気図と観測精神 広島地方気象台と猿橋勝子 216

終戦直後の枕崎台風/書くべきテーマだという使命感/観測しなければという使命感/気象技手という仕事/白いかもめと台風/「観測精神」は科学者の精神/第五福竜丸と猿橋勝子/マリー・キュリーからつながるテーマ/日本とアメリカの数値の違い/たった一人の道場やぶり

9 二つの大震災から見たもの ゲスト 石田瑞穂 236

重要な五つの仕事/恩師との出会い/指導教官がいなくなった/画期的な論文だからこそ、反発や批判が多かった/全国規模の観測網を作る/大地震は、国内だけでは計測しきれない/スーパーブルームの研究へ/東北を歩く/小学校を防災の拠点に/学生たちからの質問

10 人はなぜ回復するのか 中井久夫と統合失調症の寛解過程論 265

「心のケア」を始める/風景構成法はゆるやかに関係性をつくる/「ルボ精神科棟」が大きな物議を醸す/精神科へ進んだ理由/時代や環境によって「病」と捉えられる/治っていく過程をきちんと観察する/患者さんのそばにただ寄り添う/感銘を受けた患者さんの言葉/一つしかないものの科学/看護に希望を託す/心のケアと阪神・淡路大震災/おすすめの本の紹介

11 イリュージョンと脳の可能性 ゲスト 柏野牧夫 290

聴覚と脳の研究/小さい時から好きなものが変わっていない/一番心を動かされるのが音だった/論文では数式から生活に密着した話まで/アメリカでの研究生活/脳がいろいろなものを作り出す/聴覚の研究にまったく違う視点を持ち込んだ/師とはアプローチが違う/英語の壁を乗り越える/人の数だけ脳は違う/みな同じ世界に住んでいるわけではないという視点/耳鼻科で難聴ではないといわれても、聞こえない人がいる/何十年も先に世の中を変える研究/やっぱり好きだからやる

12 生物模倣のテクノロジー ジャニン・ベニウスとバイオミミクリー 329

自然界で目にする九十パーセントは未知のもの/バイオミミクリーとは何か/第四次産業革命の時代/世界の生物の知恵を集める/この世界がどうあってほしいのか

あとがき 346

「一生を賭けるテーマ」との出会い方 対談 池上彰×最相葉月 349

2 感染症に賭ける ゲスト 山内一也 「将来何になるか考えたこともなかった」

私が生まれたのが、満州事変が始まった時で、満州事変、日中戦争、太平洋戦争と、ずっと戦争があったものですから、自分が将来何になるんだろうなんて考えたこともなくて、軍人になることしか目の前には浮かんでこなかった。高等学校を受ける時に、とくに具体的な目標もなく、なんとなく理科二類を受けました。理科二類は医学とか生物学ですから今の理科二類と理科三類が一緒になったようなところでした。なんとなく生物、それから医学に関心はあったんですね。進学を決めるときに結核になって一年休学してしまいました。その頃にドイツ文学に凝って、ゲーテやヘッセなどの本を読んでいるうちになんとなく牧場の生活というものにあこがれて、じゃあ獣医・畜産学科に行つてのんびりやろうかと思ったんです。すると、獣医学科の越智勇一先生といって非常に有名な先生に、畜産なんかおもしろくないから獣医学科へ来いといわれて、ついて行ってしまった。それが結果的に私の生涯を決めたということになります。ウイルス学の進展とともに半世紀を過ごしてきた。これからは自分の興味があるウイルスの世界を眺めていきたいと思っています。現役で研究していた時はウイルスは全部、病気の原因、病原体としてしか見ていなかったんですが、フリーになってからは広くいろんなものを考えられるようになってきました。ウイルスというのは、本当にとてつもなく広大な世界を作っている、というかウイルスの世界の中にわれわれがいる、みたいなことがわかってきたんですね。自分の研究人生がセレンディピティというか、偶然に導かれてこんなふうに進んできたと考えています。だから自分は何をやりたいというよりも、自然にその方向が決まっていっていった。その中で、柔軟に、その時に応じて研究してきました。学問も進んではいきますが、世の中はどんどん変わっていきますから、それに対応できる柔軟性を持つことが必要ではないかと私は思います。

3 偉人伝から遠く離れて マリー・キュリーと弟子・山田延男 「マリー・キュリーの弟子ノブ・ヤマダ」

山田延男、1896年、神戸生まれ。父親が税関の職員で、日本占領下にあった台湾に家族で渡ります。台湾にいた頃、とても優秀だった山田を支援する人がいました。沢全雄という人です。沢は東京高等工業高校出身だったということもあったのでしょうか、山田も東京高等工業高校応用化学科に行きます。現在の東工大のことですね。東工大では、片山正夫に可愛がられました。液体の表面張力と温度の関係式の片山式で知られているのでご存知の方もいらっしゃるかもしれません。のちに東北大学に異動するんですが、山田も呼ばれて東北大学の理学部化学科に移ります。片山はアメリカ留学して帰国後、東京帝国大学に赴任。その時東大に航空研究所、今のJAXAができて、そこにまた山田を呼びます。山田はそこで、天然ガスの中のヘリウムとその他の成分の含量について研究しました。1923年関東大震災が起り、研究所は壊滅してしまいます。混乱の最中、山田は日本政府からフランスに派遣されて、キュリーの研究所に行くわけです。山田延男に関する資料はほとんど残ってなくて、写真も遺族がフランスに調査に行つて得られた一枚しかありません。放射線検出器のウィルソン霧箱を使っている山田延男の姿です。イレーヌと共同で α 線の飛距離の分布を調査し、ポロニウムから放出される α 線が原子崩壊の過程で出現していること、これが α 粒子の発光分析法によって示されることを、いち早く確認したんですね。山田には、フランス科学アカデミーの雑誌に掲載されたイレーヌとの共同論文が三つあります。山田が帰国したあと、イレーヌがラジウム研究所のフレデリックと結婚して二人でノーベル化学賞をとりますが、授賞理由である「人工放射性元素の研究」の過程に山田の研究があったということはもう間違いありません。山田は帰国途中、アメリカに行つて、ヘリウムガスをどうやって採取しているかを偵察してきてくれという指令を東大から受けて、アメリカに立ち寄ります。しかし、体調が悪化したため、1926年2月に横浜に到着するとそのまま東大病院に入院します。退院して御殿場で療養し、そこでフランスでの仕事をまとめて、東京帝大の理学博士号をとっています。この時に山田はイレーヌに博士号を取得したことを報告する手紙を書いていまして、フランスで放射性元素から発するエマネーション中毒にかかった人の症例が載っている医学雑誌があったら教えて欲しい、自分の症状と比較してみたいと頼んでおります。山田は、1927年に再入院し、手足の自由も失つて聴力も視力も減退して容体が急変し、11月1日に亡くなりました。31歳でした。

♡合わせて読みたい本♡

●『調べてみよう、書いてみよう (世の中への扉)』 最相 葉月/講談社
テーマが見つかる。調べ方がわかる。話の聞き方がうまくなる。だから、上手な文章が書ける！学校ではけっして教えてくれない、読む人にきちんと伝わる文章の書き方をノンフィクションライターの最相葉月さんが紹介します。



9 二つの大震災から見たもの ゲスト 石田瑞穂 「東北を歩くまで…」

何をしようと考えたこともできずに、お茶大を卒業した先輩たちを見ましたら、充実した時間を過ごしておられるように見たのが大学院に行った方たちだった。博士を目指す何人かの先輩たちが東大地球物理に行っていた。私は地球物理について何も知らなかったけれども、そういうところがあると知って受験することにしました。面接で、火山噴火はきれいだからなんとなく火山の研究室に行きたいと答えましたら、即座に火山に女性はいないといわれたんです。困ったなと思っていましたら、金森博雄先生が「地震でもしてみますか」とおっしゃった。それで、東京大学地震研究所で学べるようになったんです。金森先生が渡米され、困惑した私を救ってくださったのは理学部地球物理学科の浅田敏先生です。「指導教官がいなくらいでドクターをとれないならドクターはあきらめたほうがいいよ」という一言でした。一年遅れましたが、とりました。国立防災センターに就職し、そこから金森先生のいるカルフォルニア大学に行き、地震前兆現象を研究。防災センターで最初にしたのは、カルフォルニアと同じくらいの観測網を関東・東海地域に整備することでした。関東地域の下方には東からは太平洋プレートが、南東からはフィリピン海プレートが沈み込んでいます。新しく作った観測網のデータをもとに、もっと自然に沈み込んでいるモデルを作ったんです。いろんな議論はありましたが、これは一つのステップと考え、次は視点を変えることにしました。全国を対象にして大きな地震をちゃんと観測できる、全国を対象に広ダイナミックレンジの観測網が必要と考えて、「フリージア・プロジェクト」を開始しました。1995年の阪神・淡路大震災では6000人以上の方が亡くなられたので、国としても観測網を充実しようということで、高感度・広帯域・強振動の観測網整備が防災科学技術研究所で進められました。1996年から東工大の丸山茂徳先生が提唱されたスーパーブルームテクトニクスの研究が始まりました。プロジェクトは二億年前から現在までの全体のダイナミクスなどの実態を明らかにして、地震学的・測地学的・地質学的・岩石学的・数値シミュレーションなどの総合的に解明しようというものでした。私は、地球全体の構造を知るために地震波トモグラフィーを調べました。東日本大震災の時の聞き取り調査は、これまでとは全く違うものでした。私たちは立派な地震観測網を整備して、起きた地震に関しては、即座によくわかるようになりました。しかし、東北地方太平洋沖地震のように大地震が起こることというのは事前にまったくわかりませんでした。観測網も整っていて知識も非常にあるのに、なぜこんなに多くの方が犠牲になったのか、私たち研究者のしてきたことは人々を助けるのになぜ役立たなかったか、今後どうしたらいいかなどを、少しでも知りたかった。調査は岩手県から宮城県まで被害が大きかった十市町村です。一人ずつ話を聞いたら、多くの人々が何も情報を聞いていないんです。情報が届かなかったのです。興奮しておしゃべりしているか、ウロウロしていたようです。もう一つ、地震や津波に対する知識の不足です。地震と津波が結びついていないのです。防波堤や水門など構造物に対する過剰な信頼もあった。海岸沿いの町で最後に残った砦は学校でした。周辺の家々は津波で流されましたが、小学校だけが荒れ地に残っていたのです。堤防より学校の利用をもっと考えて欲しいと思ったんです。学校だったらいくら立派にしても、十数年ごとに補修しても、みなさん文句はないでしょうから。わざわざ別に逃げるところを作らなくていいですし、地域の人々の集合場所として常時利用できるような整備しておけばいいのではないかと思います。今あるもので何が役に立つのかをもっと考えたほうがいい。これから研究に入っていく人たちへ…自分が生きている時間、目が覚めている時間は、自分で一番自分のためになるように使うことを心がけないと、あっという間に私くらい年をとります。とにかく自分の力、自分で決めて、あとで失敗した時に、あの人があぁいったからだなんていわないためにも、自分で一個ずつ決めてください。私の頃よりも今の方が女性に対して差別は少なくなったと思います。ただ女性はやっぱり対等には扱っていただけない場合があります。性としての女性と男性、そういうことはあまり気にしないで、自分が何をしたいかを優先してください。

合わせて読みたい2冊♡

●『星新一 ～一〇〇一話をつくった人～ 上・下』最相葉月/新潮文庫

数多のショートショートを生み出し、今なお愛される星新一。森鷗外の血縁にあたり、大企業の御曹司として生まれた少年はいかなる人生を歩んだのか。知られざる小説家以前の姿を浮かび上がらせる。

●『あこのころの未来 ～星新一の預言～』最相葉月/新潮文庫

ネット社会、クローン技術、臓器移植、生殖医療…現実に行進しているテクノロジーの諸問題。星新一のショートショートには、それらを予言するようなことが描き出されていた。人と科学の関係を問いつける著者が、星新一作品を読み解き、立ち止まって考える、科学と僕らのこれから。



『世界のともだち インド』 19

“アルナブ 世界をめざす”

写真・文 桃井和馬 / 偕成社



アルナブはインドの首都デリーに住む 10 才の男の子。家族はインド北西部のパンジャブ州の出身です。アルナブは両親とお兄さんの 4 人家族。一家はおじいちゃんとおばあちゃん、それにお父さんのお兄さん家族 4 人といっしょに、大きな家でくらしています。アルナブが生まれたころから、インドでは生活が豊かな人たちがふえてきました。その理由はおもに 2 つあり、1 つめはインド人の多くが英語を話せるため、世界中の大きな会社で働くことができるからです。2 つめは、インド人が教育に熱心で、とくに算数などが得意だからです。その結果、いまでは世界の IT 産業で、多くのインド人が活躍するようになったのです。アルナブの家もとても豊かで、地上 4 階、地下 1 階の建物に住んでいて、門番さんが 24 時間警備しています。専属の運転手は 3 人、そうじ、洗濯などを担当するメイドも各階にいます。家族で行く、年に 2 回の海外旅行はアルナブも大好きです。インドではお肉を食べない人も多く、「ベジタリアン」とよばれ、野菜や豆だけでつくる料理を食べます。インドでは豚肉を食べる人は多くありません。また、ヒンドゥー教を信じているアルナブ

家族にとって、牛は神様を乗せる大切な動物なので、ぜったいに食べません。インドではヒンドゥー教のほかにも、イスラム教、キリスト教、シーク教、仏教などを信仰する人がいて、ほぼすべての人が「人間を超えた存在」を信じているのです。アルナブはデリーじゅうから生徒が集まる有名な私立の小中高一貫校に通っています。学校に着くのは 7 時 50 分ごろ。8 時 20 分までは英字新聞を読む時間です。学校では、全ての授業が英語で行われます。アルナブはパンジャブ語とヒンディー語と英語を話せますが、いちばん得意なのは英語です。学校の授業は 30 分が基本。英語、ヒンディー語、算数、暗算、体育などの授業のほかに、環境や地球のことをしっかり勉強します。アルナブの学校には給食がありません。そのかわり、休み時間はいつでも自由に家から持ってきた軽食を食べることができるので、いつもいいにおいが教室じゅうにたつたようなんです。一番長い休み時間は 20 分。アルナブはたいい友だちと校庭で遊びます。毎週土曜日はサッカーチームの練習日。家でもサッカーのゲームをして、動き方を熱心に研究しています。火曜日と木曜日は「KUMON」。日本の学習塾はインドで人気が高いようです。インドでは学力の差が、将来の仕事や収入の差になるため、教育へのお金を惜しまないのです。「小さい時の夢はサッカー選手になることだったけど、最近はお父さんの出版会社をつぐことも考えているんだ」というアルナブ。国の経済がものすごいきおいで発展し、貧富の差が日本とくらべものにならないほど大きいインドで暮らすアルナブの日常は、また新しいインドの一面を見せてくれるでしょう。(要約：K.M.)

『世界のともだち フィリピン』 20

“棚田の町の ネリ”

写真・文 石川直樹 / 偕成社



フィリピンは 7000 以上の島がよせ集まってできた、島国です。ルソン島の北部には山の斜面に棚田を作ってくらす山の民、イフガオ族がいます。イフガオ族の村バナウェイで、7 歳の男の子、ネリはくらしています。ネリにはひとつ年下で、いつもいっしょのラムという弟がいます。お父さんの仕事は運転手です。お母さんと小さな弟と年のはなれたお兄さんは、バナウェイから車で 1 時間以上もかかる町に住んでいます。お母さんは高校で歴史の先生をしていて、仕事のためにどうしてもはなれてくらさなくてはなりません。毎週末、お父さんはジープニーを借りきり、ネリとラムをつれてお母さんに会いに行きます。家族みんなが顔を合わせるのは、土曜日と日曜日だけです。ネリはとにかくテレビが大好き。家にいるときはずっとテレビをみています。ネリは週末にお母さんと一緒にすごせるのを毎日心待ちにしています。バナウェイは、広大な棚田の風景で有名な村です。家々は谷の斜面にへばりつくようにたっていて、ネリの家もがけつぷちにたてられています。首都マニラから車で 10 時間以上もかかります。電気はいちおう通っていますが、ない家もあります。ネリの家は、夜になると電球はつくのですが、あついお湯のお風呂

などはありません。ネリとラムはひとつのベッドにいっしょに寝ます。朝 6 時におきると、まず家のうらに行って、歯をみがきます。家に水道はありません。雨水をためたバケツから水をすくい、歯をみがきとうがいをします。うがいた水はペーっと谷底へすてます。今日はお母さんがいるので、体をきれいに洗ってくれました。薪で火をおこし、大きな釜の中でお湯をわかします。きれいになったら、着がえです。ちょっとおしゃれな模様のシャツを着て、革靴をはいて学校に向かいます。学校までは歩くと 10 分くらい。ネリの家は山の上の方にあり、学校は谷の下の方にあります。行きはらくちんですが、帰り道は坂をのぼり、急な階段をのぼらなければいけないのでちょっと大変ですが、あちこちよりみちをしながら歩いて楽しそうです。学校は 8 時から始まります。ネリの好きな科目は算数、きらいな科目はフィリピン語です、本を読むのは好きではなく、日本のこともそんなによく知らないようです。将来の夢はパイロットですが、ネリはすぐに乗り物酔いをするので、少しだけ心配です。あとは、軍人さんにも興味があります。お父さんは「なりたいものがあれば、その夢をかなえられるように、どんなことでもたすけるよ」といっていました。バナウェイ村の小学校は、日本にくらべるとおおらかな雰囲気があって、先生たちもどこかのんびりしています。ネリはイフガオ族の子どもです。イフガオ族は山にくらす少数民族で、山々ときあひ、自然の恵みをもらって生きていました。昔は草花で糸を染め、機織りをしてきれいな布地を作って服に仕立てていました。薬草の知識なども豊富でした。でも、昔の習慣はなくなりつつあります。山と生きてきたイフガオ族の今のくらしがネリを通して描かれています。(要約：K.M.)

□2023 年 志望校合格を目指して ～生物部のある私立中学男子校受験の記①～

塾へ通い始める

我が家の次男が大手進学塾へ通い始めたのは 2018 年冬。友達のお姉さんやよく遊んでもらっていたお兄さんが中学受験に向けて塾へ通いながら、日々勉強している姿を間近で見ていることがきっかけでした。お兄さん、お姉さんが勉強している傍へいっては何をしているのかな・・・と覗き込んでいました。自分が大好きな生き物について尋ねれば詳しく解説してくれる。自分が未だ知らない世界の話が会話で飛び交う。会話にも博学ぶりが現れていたのでしょう。

「(お兄さん、お姉さん) めっちゃカッコイイ!!」「僕が知らないこともたくさん知ってるみたい!!」「いいな、いいな～。僕もたくさんを知りたいな!!」「僕もお兄さんたちが通っている塾へ通ってみたくなった!!」

知りたがり屋で好奇心が旺盛な次男らしい理由でした。【したいことはとことん付き合う】を大切に子育てしてきた我が家。知りたい、学びたいという息子の気持ちを否定する理由はどこにもなく、家から通える範囲の塾を全て体験し、息子が好く塾へ入塾しました。選んだ塾は国語と算数の授業の日の他に身近な科学についての疑問を自分が科学者になって考え仲間と対話する日がありました。その講座がとても楽しい! 毎回、塾からの帰りの車の中はお話が止まりません。話をする時の息子の目の輝きは、親にとっても喜びでした。

中学受験を意識し始めた 3 年生夏

小3の夏休み、私学に通っている中学生から直接話を聞くことができるフェアに参加しました。お友達のお兄さんみたいにカッコいいお兄さんがたくさんいるから、行ってみたい! そんな単純な理由(子供らしいです…)からです。事前に準備した質問をミニノートに書き込んで…。

ワクワクしながら会場へ向かいました。入ってすぐ…凄い!!! カッコいい制服に目を奪われました。(今は見かけることが少なくなった学ランですね) お兄さんが、学校生活を楽しそうに話す様子にくぎ付け! 「ガンダム研究同好会?! 手品部?! 生き物部?! 食堂もあるの? アイスクリームが食べられる?!」「すごく楽しそう!!」「僕も行きたいな～。」…男の子って単純ですよ。カッコいい制服を身にまとい好きなことが出来て食べられればよいのです(笑) 帰り際に「勉強頑張ってるね」という言葉とお兄さん直筆の応援メッセージカードをもらいました。帰宅後、まるで宝物を扱うかのように肌身離さず持ち続け、何度もメッセージを読み返していました。寝る前には机の前に丁寧に貼りました。そのメッセージは今でも大切に保管しています。

フェアで出会ったお兄さんたちのようにカッコいい制服を着て学校に行きたいな…それを実現する為には勉強しないとね…息子とそんな話をしたことを記憶しています。この経験をきっかけに中学受験のために勉強をするんだという意識がだんだんと芽生えてきました。この頃、週3回バスと電車を乗り継いで一人で塾へ通っていました。小さな体にテキストが何冊も詰まった大きなカバンを背負って。後ろから見ると、カバンから頭と手足が生えているようでした(笑) 時には学校で疲れてしまっ行って行きたくない、行きたい気持ちじゃないからと泣くこともありましたが、でも、自分で行きたいと言って始めたことなので親も心を鬼にして「行きたくない理由があったとしても行きなさい!」の一喝。それで行ってくれたら苦労はないです。大抵行きたくないと言い続けます。行きたくない理由をつらつらと話し続けます。息子の言葉を聞きすぎると彼の性格上、親を丸め込もうとします。感情的にならないようにこちらも抑えているのですが、親も人間です。体調や気持ちに左右されます。「だったら、辞めなさい!」…最終手段は毎度ほぼ、脅しでした(笑)。もうちょっといい言葉をかけてあげられたら良かったのにと今では思います。

しかし、この言葉の裏には、こんな思いがありました。自分の気分が乗らない時は休んでもいい…そんな風に思っ欲しくなかったのです。行けば、必ずワクワクするような学びがあるから。行きたくないとごねた日も塾から帰ってくるとあんなこと学んだよ。こんなこと学んだよ。ママ、知ってた? とお話は止まりません。頑張っ通えたことを思いっきり褒めて、一緒に学んだことを振り返る…そんな日々でした。

4 年生前半:勉強量がだんだん増えて親も子も…うっっ…大変…

4 年生になると学校も塾も段々と勉強量が増えてきました。春はコロナの影響で学校や塾が一斉に休校となり、時間にゆとりが生まれ、学びを深めていくことができました。ただ単にテキストやオンライン授業から学ぶのではなく、youtube 等を使って興味のあることはとことん調べる、探す。そして、自分の感想も混ぜながらテキストの余白にどんどん書き込む。息子にはこの勉強スタイルが合っているようです。しかし、休校期間が終わり学校が再開すると分単位で毎日過ごす生活へと一変します。塾のある日は学校から帰宅後ランドセルを下すとすぐに学校の宿題にとりかかります。ですが、塾の開始まで 40 分しかないので宿題は終わりません。出発ギリギリまで宿題をして、塾のカバンにテキストと軽食を詰め込んで走っていく…。塾から帰宅すると、学校の宿題の残りや塾の振り返り。睡眠時間を削ることは家庭の方針ではないので、布団へ入る時間から逆算し、過ごすこととなります。疲れていてもぼーっとしている暇はありません。時間が限られているので、私たちも「早くしなさい!」という声かけが自然と多くなってきました。そして塾の定期テストもぐっと増え毎月 3 回となりました。勉強して覚えていないと全く書けない。初めて学ぶことを 1 週間で理解してテスト用紙に書く…白紙に近い状態の解答用紙の時もあり、出来なかった…と大泣きすることもありました。自己採点でもバツがたくさんつく…次のテストは前回よりも多くマルが欲しくて自分なりに一生懸命に勉強をします。しかし、思ったようには結果が伴わない。授業はどんどん進むのでついていけなくてはいけません。学ぶことの楽しさよりもここからここまで覚える。解けるようになる。出来るようになる。ことで頭がいっぱい。「やらなくちゃ…」「でも、気持ちがついていけない…」泣きながら机に向かう事や何だかんだと文句を言いながら勉強を始める事が多くなってきたのは夏前頃からでした。学ぶ楽しさよりも勉強を業務的にこなして

<<千の声 VOICE>>

いくことにウエイトが大きくなるにつれてプチ失踪（行き先を告げずに家から抜け出し、遅くなるまで帰ってこない事。ときには、塾の時間すら守れない事も）が増えてきました。

その頃は何も話してくれなかったのととても心配したのですが、最近、息子がこのプチ失踪について話してくれました。走り回って頭と心をすっきりさせていたそうです。モヤモヤを解消する方法だったんだと笑いながら教えてくれました。話を戻しますが、この頃から精神面のサポートが大変になってきました。大人は人生経験があるので、今回出来ていなくても、分からなくても何度も学んでいけば必ずつながって理解できるようになる…。今の段階でテストや取り組んだ問題にバツがつくことはまだ自分が理解できていないということだけ。ただそれだけ…。学び直せばいいんだ。それが分かるようになるとマルがつく…。だからバツは伸びしろなのだ…。と理解できるのですが、手応えが感じられない状態が続いている息子は受け入れることが難しかったようです。がっつりとサポート体制をとらなくては。と本格的に動き出したのもこの頃からです。塾や先輩ママたちに相談したり、毎晩のように夫婦で話し合っていました。間違えていた問題が一つでも解けるようになったら一緒に喜ぶことを意識して、机に向かうことが嫌にならないようにとの思いで息子に接していました。石川先生との出会いもあり、癒しを求めて息子が石川塾へ通い始めたのはこの頃です。

4年生後半から息子が反抗期に突入…親の忍耐も限界値に…

元々我流が強い子なのですが、反抗期に突入したらしく口ごたえが徐々に増えてきました。親が提案することとは毎回真逆のことを言う。時間管理も僕がやる！どこを勉強するかも僕が決める！口を出さないで欲しい！ということを訴えるのです。一見、自立しているかのようにですが、人間は急には変わりません。そして、やっぱり楽な方が自分には心地良いです。ゆるゆるスケジュール。なわけです。毎晩一緒に一日の振り返りをして本人に考えさせるのですが、こうした方がもっと良くなるんじゃない？とアドバイスをするとムスッとした態度になる。テストもマルが減り（当たり前ですね）ぶつぶつ文句を言っているのも、もっと良いやり方の提案をすると「分かってる！」と声を荒げることも。始めは私たちも忍耐していましたが、あまりにも生意気な口をきき、感謝の気持ちも持てなくなっている息子の態度を見るうちに「やる気あるの？」「受験するって言ってるけど、今のままじゃ難しいんじゃないの？受験以前の問題だ！」と否定的な言葉が増えていきました。親がひと言いえば、それ以上に自分なりの理由をつらつらと言いまくる。家庭内が嫌な雰囲気になることも増えていました。学ぶ楽しさが感じられなくなったこと、受験をするとは決めたものの行きたい学校がまだこれといって決まっておらずモチベーションを維持することが大変だということは理解してあげていましたが、このような親子の状態は望んでいなかったのものでそこまでして息子が目指す意味はないと思っていました。

ある晩、息子と一緒に話し合いを持ちました。私たちが息子の日々の生活をみて思っていること、今感じている気持ち…受験をすることを白紙に戻さないかということを経由して理由を交えて伝えました。息子は「どうして僕のしたいことを奪おうとするの？」と言って大泣き。これからどのようにしていくのか。親子で改めていくつかの決まりを作りました。そして、いつも私たちはあなたのことを応援しているということもしっかりと伝え、仕切り直して進むことにしました。

小5で大手進学塾を退塾…石川塾で志望校合格を！

石川先生には我が家で悩みがある度に、駆け込み寺となってもらいたくさんのアドバイスをいただいています。通い始めた頃は要旨要約や抜き書きが苦手だったので国語と算数は中学受験の頻出分野を中心にカリキュラムを作っていただけていました。学ぶことの楽しさが感じられなくなっていると相談した時には理科（特に生物）がとても大好きなので「サピエンス全史」を学ぶことを提案していただきました。興味のあることを学び、終わった後に好きな本を自由に手に取って読むことが出来る石川塾は息子にとって学ぶことが面白く、ホッとできる場所となっていました。大手進学塾で小5のカリキュラムが始まった頃から息子の身体に異変が現れ始めました。顔をゆがめることが増えてきたのです。いわゆる「チック症」です。多くの場合はうまれつきチックを起こしやすい脳の体質であると考えられているようですが、息子の場合はストレスが原因となっていると直感的に分かりました。小5になり、通常授業の他にも別講座もあり、帰宅は21時を過ぎます。分からない問題を先生に聞くと帰宅はもっと遅くなります。授業によっては偏差値に関係なく授業が進められていきます。その場合、先生は当然レベルの高い子向けに授業を進めていくので、自分が解けるレベルでない問題が出され、必死についていこうと頑張っていたようです。色々な友達と一緒に学び合うことは自分では考えつかない意見や解き方を聞くことが出来てよい刺激も受けていたようですが、疲れているようでした。コロナの影響で塾での食事は認められていないので、帰宅後食事をとり、塾の振り返りをしてから就寝。生活スタイルはまるでブラック企業で働いているよう。中学受験はこれが当たり前の世界なのかもしれませんが、息子の様子を見ると、この状態で突き進むことは間違っていると感じていました。難関校への進学を希望しているわけでもなかったのも、学習進度も内容も息子に合っていないように感じていました。しかし、本人に進学塾を辞めることを勧めても「絶対に辞めないから！」と拒絶。中学受験は過酷であることは承知している。だけれども、学びは中学受験の為だけではない。生涯、学び続ける。このままでは良いと思わない。忙しい中でも楽しく学ぶことは出来ないだろうか。そして、彼に合った方法で受験を目指すことは出来ないのだろうか…。そのような思いをもって、駆け込み寺へと向かいました。

石川先生は息子の状況、親の思いを受け止めてくださり、息子の為に志望校合格に向けて全力でやります。任せてください。と言ってくださいました。突然伺ったのでその時は息子のカリキュラムの話までは出来ませんでした。これまで息子が石川塾で学んだことが理解を深め、塾のテストでもマルがつくようになることもちらほら見られるようになっていました。分かることが増えるとやる気が出て、苦手なものや難しいと感じているものにも自ら向かう。そんな姿を思い浮かべると同時に石川先生の熱意ある言葉を思い出し、石川塾で学びながら受験の準備をする気持ちを固めていきました。そして、その日の夜、夫婦で話し合いをし、息子を説

得することにしました。ですが、頑固者の息子。私たちがやり遂げることを言い続けたことも影響したのかも知れません。「絶対に辞めないから！」とまたしても拒絶されました。理由は色々。対面授業が面白いから。友達の意見や考えを聞くことで発見がある。等々。これは、長期化しそうだ…と感じていました。

親がすっぱりと決断すればいいのですが、納得いかない引きずる性格の息子。本人の納得しないままの決断は「僕はこうしなかったのに。勝手に決めた。」と残りの人生言い続ける可能性があります。はやる気持ちを抑えつつもここは両者納得のうえでの決断としたかったのです。GWに入り、息子が一番に志望している学校を外観だけでも見に行こうということになりました。コロナ渦なので各学校の見学は難しく多くの学校はZOOMもしくは動画で学校紹介をしています。これまで自宅から通える範囲で気になる学校を視てきました。息子は学校に入りたい事が決まっています。息子が志望する学校では生物が盛んで、紹介動画の際「希望する生き物があれば、申し出てください。飼えないものはありません。」との先生からのメッセージに完全にノックアウトされました。憧れの学校へ…。電車を乗り継いでワクワクしながら向かいました。学校へ到着すると、警備の方が学校の敷地へ案内してくださいました。入った瞬間、感じるものがあつたようです。

「僕、絶対にここへ行きたい。」「どうしても行きたいから、一生懸命勉強をする」と突然の決意表明。偶然にもこの日の午後、石川先生との面談があり息子の受験に向けてのカリキュラムの提示がありました。息子が楽しめるカリキュラムもあり、弱点強化のカリキュラムもあり…。息子オリジナルのカリキュラム。息子の学びたいものと受験に向けて必要な学びもしっかりと組み込まれているこのカリキュラムに感動しました。帰宅後、すぐに主人と息子にカリキュラムを見せました。主人は「このカリキュラムが好きだ。楽しそうだな。俺も一緒にやってみよう」と言い、息子はあんなに拒絶していたのにもかかわらず、自分が好きな生物の図鑑を学ぶ日を見つけた瞬間に「やっぱ、石川塾にするわ。」とあっさりと快諾。しまいには喜びの舞。目標が明確となり、自分がしっかり学べば、今の進学塾にこだわる必要はない。そして、生物が好きなので学びたい。という気持ちがあつたようです。すぐに石川先生へ依頼をし、6月から石川塾で志望校合格へ向けてスタートすることになりました。「石川塾で学ぶことがとても楽しみ。特に生物の図鑑を早く学びたい」時々息子が口にするようになりました。「学ぶことが楽しみ」という言葉を聞くことが出来て親として嬉しく思っています。志望校も確定し、息子の姿も変わりつつあります。小4から毎日続けている朝の「漢字と計算」。眠さに負けてしまひ何度も声をかけないと机に向かえなかったのですが、最近では自分から机に向かい、時には「よっしゃ〜！」と気合を入れて続けています。学校の宿題を早めに終わらせ、声をかけなくても自分で塾のテキストを開き学ぶ姿へと変わってきました。内容は難しくなっていますが、学ぶことがとても楽しいそうです。定期テストもマルが増え、塾での席順も一番前になり、自信となっています。

疲れていて勉強に気持ちが向かないときは学ランを着て生き物を触っている姿を想像してモチベーションアップを図るようです。これから、どうなる！？我が家の中学受験。～続く～

●シンペイ君(小5)のお母さんからの VOICE■

口受験というのは親力も試されている ～国際的な(都立)公立中高一貫校受験の記②～

石川塾との出会い

「面白そうな塾があるわよ」と言って千の声 VOICE の創刊号を母が渡してくれたのは、息子が小学3年生の夏だった。遠足、漢検、中学入試、都立高校入試、そして2才からの幼児教室…紙面から大手の進学塾にはない多様さが伝わってきて、面白そうだなと思った。けれど、「幼児が通う塾＝早期英才教育」という思い込みがあり、敷居の高さを感じて、すぐに通学を考えなかった。

それから半年後、息子が通っていた学童を卒団する年齢になり、この先どうやって生活を回していこうか迷い始めたとき、石川塾のことを思い出した。勉強については市販のドリルに自宅で取り組んでいたけれど、息子はだんだん興味を示さなくなっていた。また親でも学校の先生でもない関係の“誰か”複数に、子供の成長を見守っていただくことを意識して子育てをしてきたけれど、それが塾であってもいいのかな、と思ったことが体験に行くきっかけとなった。

体験には親子で参加した。教室中に本棚が並んでいて、幼少期、本の部屋がある家に住んでいた私には、少し懐かしい感じがした。息子は詩の暗唱や、作図の問題に取り組んだが、1時間が経過した頃から「疲れた」と言って、帰りたいオーラを放ってきた。帰宅後「楽しかった」とは言っていたものの、本当のところは大変という印象が強かったようだ。

入塾のきっかけ

5月の連休に5年ぶりにメキシコを訪れた。息子は到着直後からすんなりとメキシコ社会にとけ込み、メキシコの家族と毎日楽しく過ごした。最後は「日本はまじめすぎる。帰りたくない」とまで言っていたが、帰国後は運動会に向けて始まっていた練習の遅れを一気に取り戻し、以前より成長した姿を見せてくれた。出発前、「石川塾は自分には無理。先生が怖いし、長時間勉強できない」と呟っていたのだが、「ちょっと頑張ってみたら」と声をかけたら少しやる気が出てきて、通ってみるようになった。当時息子はサッカーに熱心で、勉強はオマケみたいな感じだったけれど、100マス計算や数検、漢検など目標を決めて勉強に励み、その結果合格できると嬉しそうで、少しずつ自信をつけていった。

臨時休校

新型コロナウイルス感染防止のための全国一斉休校のニュースから2日後、学校もサッカーもプールもすべてお休みになり、生活が豹変した。大人がみんなうろたえていたあの時、先生は「石川塾は先生が死ぬまで休まない」と、息子の前ではっきり断言された。どうやって仕事をしながら毎日を乗り切ればいいのか困ってい

<<千の声 VOICE>>

たので、ここには居場所がある、と少しホッとしたことを覚えている。この状況で通塾しても大丈夫なのかという不安も正直あったけれど、先生が毅然とした態度で臨んでいるので、「大丈夫なのかな」と思えた。学びの場を失くしてはいけない気がして、息子と休校中は石川塾の時間を増やして勉強を続けようという話になった。この時から石川塾の名物講座、「理想の国語教科書」（青版）の要約や、算数の単元学習を始めた。理想の国語教科書はかなり高レベルに見えたけれど、息子は割と積極的に学習していた。「話の筋がおもしろく、『凄み』や、読む人に憧れを喚起させる文章」が集まっているというこのテキスト。難しいながらも心動かされる作品も多く、新鮮な気持ちで勉強ができたのだと思う。塾からの帰り道、どんな話を要約したのか話してくれることもあった。算数の単元学習は、途中で難しくなり一旦休止したけれど、息子は石川先生に信頼を寄せるようになっていった。

塾なし、模試なし、家庭学習での中学受験

息子に公立への進学を勧めている私自身は、実は私立中高一貫校の出身である。とはいえ、6年生になっても友達と遊ぶ時間があって、今の息子と比べてもはるかに気ままな小学校生活だった。その一方で、同級生の半分ぐらいは早くから通塾していたことも、僅かながら記憶している。6年生の連休の頃、いきなり母が、少し勉強を頑張って私立の学校に進学したらどうかと言い出した。そして私に算数と国語の参考書と問題集を渡し、これから毎日それを勉強するようと言った。その時点で、本当に私立の学校に進学したかったのか、正直よく分からない。

兄と弟に挟まれて育ったのに、いきなりおっとりとした雰囲気の子校に入ったため、入学後は自分が場違いの学校にいるのではないかと、居心地の悪さを感じたこともあった。ただ、父と母が実際に過去問を解き、自宅学習でも合格可能で、時間的にも無理なく通える学校を選んでくれたことはありがたかったし、算数が苦手だった私が高校受験でつまづかないよう、進路を真剣に考えてくれたからなのだと思う。私は1日1～2時間の勉強を続け、偏差値とか模試とかの存在を知らないまま、その学校に入学することができた。割合でつまづいてからずっと苦手だった算数について、「女子で一番だったよ」と2学期の最後に担任の先生が教えてくれた。まわりの受験組の女子グループは、塾という別世界で、はるかに難しいレベルの学習に励んでいるように見えていた。「通塾＝成績優秀」とは限らない、見掛け倒しの世界があることに、少しだけ気が付くきっかけになった体験だった。

試される親力

尚輝が「受験をしたい」と言った当初、「それなら石川塾は辞めて、進学塾に行くのが一番近道かもしれないよ」と伝えたところ、猛攻撃にあった。「自分は石川先生と勉強をして勉強が楽しくなったから、他の塾には行かない」と言って譲らなかった。私は自分の親がそうであったように、適性検査の過去問に目を通してみたけれど、残念ながら歯が立たず、具体的な対策も勉強の進め方もアドバイスできず、結局は石川先生を頼り切る状況になっている。そして、時々息子の勉強の進捗状況を確認すると、継続しているはずのプリントが途中で途切れていたり、全く手をつけていなかったりで、その度に慌てて首を突っ込む羽目になる。付かず離れずの距離で見守っていること、息子が自分で考えてやる力をつけるためのサポートをすることが大切で、受験というのは親力も試されているのだと、時々居心地の悪さを感じている。

石川塾の魅力

先日「どうして最初は怖いと言っていた石川塾が楽しくなったの？」と聞いてみたら、「先生に『やればできるじゃないか』と声をかけてもらったことがあって、自分もできるんだと思えたから」と教えてくれた。そしてコロナ休校中に、「少し勉強でも頑張ってみるか」と取り組んでみたら、意外と勉強も楽しくなったという。とてもシンプルな答えだったけれど、先生はきっと息子の心に響くタイミングで、心に届く伝え方をして下さったのだと思う。私は中学受験で進学塾に通った経験がないため、進学塾でどんな授業を行い、受験生をどうサポートしているのかは分からない。けれど、どこも生き残りをかけて合格率を上げるべく、情報をいち早く収集、分析し、それを授業に反映しているのだろう。そうした豊富な情報にアクセスしないまま受験を迎えることに、親として全く不安がないと言ったらウソになる。

一方石川塾では、情報戦ではなく、生徒がこれから生きていく上で必要な力がつく学習をして下さっている気がする。「受験で力尽きてはいけないよ。合格はゴールではないよ」「学校は人生の通過地点にすぎないよ」と先生はおっしゃっている。「木を見て森を見ず」ではなく、いつも森を見て、本当に大切なことを吟味されている印象を受ける。要旨要約に「理想の国語教科書」や「使える徒然草」を選ぶのは、それらの作品から、時代を超えて通用する先人たちの知恵を学ぶことができるからだろう。

「サピエンス全史」「生物・生命科学大図鑑」「講書始のご進講」をテキストに使用すると聞いたときは、そのユニークさに内心笑みがこぼれた。先生自身、絶えず読書をされていて、工夫を怠らず、普通の授業の中にも生徒のモチベーションが落ちない仕掛けがあるから、尚輝は「大変でも楽しい」と頑張ることができるのだと思う。やりたいことが分からない子にならないで欲しい、やりたいことを見つけて欲しい、そんな本当の願いに寄り添ってくれる塾なのだと思う。その一方で「親も頑張らないと」と感じる多少の緊張感がある。先生が貸して下さる本はとても参考になるものが多いが、スラスラ読めない専門書もあり、いくつになっても学び続けることが大切だと背中を押されているような気持ちになる。

コロナ禍での決断

最近私の頭の中では「本来試験とは、勉強した時間、努力がそのまま点に結びつくべき。運が試されるような公立校の試験は、小学生には酷だ」という専門家もいる」とおっしゃっていた先生の言葉がぐるぐるしている。

その言葉の重みを最近やっと理解できた気がして、日ごとに勉強時間を増やして頑張る息子の姿を見る度に、高倍率の公立校受験を安易に後押ししてよかったのか、という思いが横切ることがある。

3月下旬からやっと再開していたサッカーの活動では、4月25日からの緊急事態宣言により公式戦がすべて延期になった。宣言下では、放課後わずか30分、校庭で遊ぶことすら許されない。先行きが不透明で、楽しみにしていることも状況次第で中止になる日常生活。楽しみが減るたび、皮肉なことに勉強する時間が生まれる。コロナ禍だから勉強を頑張ってみようと思った息子は、親よりずっと冷静で、よく状況を見極めていたと思う。コロナ終息後には、きっともっと自由を満喫できる時がくるはずだから、あと9ヶ月—悔いのないように頑張れ。●ナオキ君(小6)のお母さんからの VOICE■

□七人の子育て奮闘記② ～長女・次女～

長女「ズボンや半ズボンを好んで着る好奇心旺盛な女の子～しっかり者で頼りになる存在～」

次男と1年半違いで石王家3番目、長女として誕生。待望の女の子であったため、とてもかわいくて、ワンピースやスカートなど女の子らしい服をいろいろ着せたいと買い揃えた記憶がある。実は私の洋裁活動もこの時からスタート。手作りの幼児服(スカートなど)を作ったのだが、上二人は男の子だからか、物心ついたころには普段着は女の子らしい服ではなく、ズボンや半ズボンを好んで着ることが多かった。

教育方針も兄たちと同様の見守りスタイル。キッチンのカウンターから上り、流し台に手を伸ばし蛇口を上げて水を出してみたり、兄の靴を履き、家の中を歩き回ったりと好奇心旺盛。食べることも大好き、ゆっくりだがきれいに食べてくれ、2番目の兄と同じでよく寝てくれる子だった。運動も得意で自転車は年中でマスターし、小学校1年生の時には、パパと二人の兄たち(小3と小4)と町田から江ノ島までサイクリングで往復制覇。疲れたけど楽しかった、また行きたいと音を上げないところがすごいなと感心した。

幼稚園の時からテコンドー、水泳、そろばんなどの習い事を始め、小学校に入学してからはサッカー、ピアノも習い始めた。しっかり者で、母親の手助けなしで勉強机、自分の洋服ダンスはきちんと整理整頓している。その分他の兄妹にも同じように求め、小姑のように注意をしてうるさがられることもある。だが学校では、他の子の手助けをよくして頼りになる存在と先生からうれしいご報告を頂いた。料理や手芸も大好きで、図書館から借りてきた手作りデザートなどの本をコピーして自分のレシピ集を作り、片っ端から手作りにチャレンジし、家族に振舞ってくれたり、私の指導の下、フェルトで果物などの小物作りを頑張り、祖母の誕生日などにプレゼントしては「なかなかの出来栄えだ」と喜んでもらっている。

今年4月からは小学校5年生となるが、石川塾へ入塾後さらにその力を発揮し、与えられた暗記物を次々と覚えている。読書も好きで、伝記ものから戦争ものと内容は多岐にわたる。マルチに自分の得意分野を広げ、将来は人の役に立つ仕事についてくれたらと願っている。●セイナさん(小5)のお母さんからの VOICE■

次女「小さいときは水遊び・食べること・歌うことが大好き～大きくなっても水泳と歌が好き～」

成愛は、石王家4番目の子で次女として誕生。よく寝て、飲んで、よく食べて、子育てに慣れたママにとってはとても楽な子でした。小さいときは水遊びが大好きで、洗面台のボウルの中に座って遊んでいたりと、トイレの水をピチャピチャさせたり、水槽で泳いでいる魚を捕まえようとしていたり…。まー、いろいろとやってくれました。

食べることが大好きで、食べるのも早く、3口で飲み込みます。自分の分がなくなると、隣に座っている兄の分を、兄がよそ見している間にササッと取って食べたりしていましたね。また、歌うことが大好きで、『アナと雪の女王』の主題歌が流れると、全身に力を込めて「ありの～ままの～」とサビのところを繰り返し叫びながら歌っていました。この子は歌うことが好きなんだ、きっと上手くなるだろうなと思っていました。幼稚園から、そろばんやテコンドー、水泳と習い始めましたが、そろばん教室では先生の話を見聞かずにさぼっていたり、テコンドーでも真面目にやらず、歌を口ずさんで先生にしかられたことも。水泳は楽しいのか頑張っています。どうやらじっとしているのが苦手なようです。家では料理のお手伝いが好きで率先してやりますが、後片付けは嫌がります。

勉強は苦手でしたが、石川塾に通いはじめてから少しずつ変わり、できることが多くなりました。今年4年生になり、わが道を歩んでいる成愛。ピアノと歌を習っていますが、どうやら歌の方が得意なようです。親バカですが、ビブラートをきかせ、とても上手です。将来は音楽関係の仕事につくのかしら？特技を生かして人を助けられる仕事についたらいいな、と願うママです。●セイアさん(小4)のお母さんからの VOICE■

□漢検3級・数検3級・英検3級 “三冠達成” ～ふたつめ～

数検3級合格まで

漢検に合格し、高校受験の願書提出の際に間に合う最後の数検が9月中旬にあるので、8月から数検の勉強を始めました。漢検のときとは違い、あと一か月弱で検定という短い期間、そして、数検の約二週間後にある英検に向けての勉強もあったので、3つの検定の中で一番勉強ができませんでした。しかし私は、漢字や英語に比べて、数学は得意でした。最初から絶望的な点数はとりませんでしたが、合格の7割には達していませんでした。私は、これは何とかしなければと思い、まず、三年生で習う数学を、学校の授業で習った単元まで習っていない単元と関係なく勉強しました。すると、すぐに合格点に達しましたが、その時点で検定日一週間前を切っていました。私は、できるだけ余裕をもってテストに挑みたかったので、ギリギリまで勉強しました。その御陰で一次も二次も8割・9割の得点をとることができました。ギリギリまで粘って良かったと思います。

●ミクさん(中3)からの VOICE■ (“三冠達成”次号につづく)

<<石川塾の遠足>>

4/11（日） 遠足の体験記

9:30 小田急鶴巻温泉駅～吾妻山～弘法山～権現山～浅間山～秦野駅コース行ってきました♡

◆我が家は今年初めての遠足でした。小田原線で初めて降り立った鶴巻温泉駅、そこから一同で出発しました。登山道は時折り狭いところもありましたが全体的には歩きやすく、春の草花を愛ながら楽しく歩き進むことが出来ました。あちらこちらの地面にたくさんの桜の花びらを見かけ、つい先日までここに桜の花が咲き誇っていたのだらうなと感じさせてくれました。途中で二度も蓑虫が目の前に現れてびっくりしましたが、子ども達はそれを喜んでいました。吾妻山で一度目の休憩をして弘法山へ。かつて弘法大師空海が山頂で修行をしたとのこと。大きな鐘楼、釈迦堂があり、また弘法の乳の水と呼ばれる手こぎポンプ式の井戸水がありました。休憩をとりながら光樹先生から「弘法」を使ったことわざの質問があり、見事にMさんが「弘法にも筆の誤り」と答えてくれました。そしてもう一つは何だったっけ？とみんなで話していると、さすがKさん、「弘法筆を選ばず」とお答え下さいました。素晴らしい！休憩の後は、お昼ご飯の権現山までもう一踏ん張り頑張って歩きました。弘法山から権現山までは30分くらいで到着し、そこで待ちに待ったお昼ご飯。疲れているはずの子ども達は急に元気になってお昼ご飯とお菓子タイムを楽しんでいました。展望台からは少し雲がかかってはいたものの、富士山を拝むことが出来、感動的でした。その後浅間山を通過して下山し始めましたが、帰りはなかなか急で狭い道や階段も多く、対向者も多かったのが気が抜けなかったです。山道を下り終えてアスファルトの道路が見えた時は嬉しかったです。そこから一同はサーティワンアイスクリームへ。子ども達のテンションが一気に上がり、大人数でサーティワンへ到着。みんな笑顔でアイスクリームを食べました。サーティワンを後にし、次の目的地秦野駅まで子ども達と光樹先生は水無川の河原を歩いて帰りました。子ども達はどこにそんな力が残っていたのかと思うほど元気いっぱい。無事に秦野駅に着いて、それぞれ帰途に着きました。今回の遠足で特に印象に残っているのは、初めて参加してくれた年長のお友だち。最初は歩いてばかりで疲れてしまったのか、時折り弱音が出てしまっていたのですが、それでもお友だちと一緒に最後まで歩く事ができ、帰りには「きつかったけど、また遠足に行きたい！」と言ってくれたのです。わずか5時間程の間に大きな成長を遂げた彼女の姿がとても遅く見えました。おかげで清々しい気持ちで遠足を終える事ができました。一年生になったばかりの娘も疲れたけれどとても楽しかったと言っていました。ノノカさん(小1)のお母さんからの VOICE■



5/16（日） 遠足の体験記

9時 JR 逗子駅集合（バス）→葉山～一色海岸（磯遊び）～森戸海岸（おやつ）～鋸港（昼食）～逗子海岸（桜見）～逗子駅（ソフトクリーム）

◆コロナなかで子供達と遠出できず、主人が石川塾のお便りを見て、みんなで石川塾の遠足に行こう！ありがたい！ということがきっかけで参加させていただきました。大人数で行動は不安でしたが、下の二人は予想通りの抱っこだった、急に止まって靴を脱ぎ始めたりで遅くなったりでご迷惑をおかけしましたが、先生方が下の子の面倒を見てくれたおかげでとても助かりました。また予想以上に歩くコースだったので私達の足はパンパンでした。子供達は磯辺でカニをみつけたり、貝殻を拾ったり、海に入ったり、新しい発見ができたりと、とても楽しんでくれたので参加して良かったと思いました。また普段できない体験をすることで彼らの新しい学びになったことでしょう。逗子、葉山には来たことがなかったのでその場所が知れて良かったです。みなさんと解散したあと、少し残って遊ばせてもらいました。



セイギは壊れはじめ、「オーー！」と叫びながら走り出して、急に止まりゴロンとしはじめた行動を近くの3人組の遊びにきた人達が見て大爆笑してくれていました。せいかは砂を自分の足にかけて埋めてみたり、自分の靴の中に砂をいっぱいに入れたまま置きざりにし、自分は裸足で歩き回るといった行動を。他の子はひたすら貝殻集めをしていました。とても開放感のある時間でした。時間ができたらまた葉山の海辺に来たいねえ～と話しています。帰りは石川先生の言うてくれた通りに歩いたつもりが何故か道をそれてしまい若干遠回りとなりましたが無事に駅に到着しました。途中でモーモーアイス屋さんを目にし、せいなが「ママー、ここじゃない？ 先生が言ってた、アイスクリーム屋さん」と言いましたが、私は「うーん、そうかもね～」とスルーさせていただきました。みんなで駅まで歩きましたが、せいかは車乗るまで抱っこ！セイギは人ちの窓を覗いたり、わざとゆっくり歩いたりふざけながらなんとか無事に車へ。家に到着まで上の二人以外はみんな爆睡していました。本当に楽しかったようで石王家もまた新たな思い出ができて良かったです。

●年少～中2の七人兄弟姉妹のお母さんからの VOICE■

<<カブトムシ・宇宙ワークショップ>>

●3月21日(日)カブトムシを育てよう♡ワークショップ開催しました♡

「昆虫文化を子供たちに伝える会」代表の三宅潔先生をお招きしてカブトムシワークショップを開催しました♡午前・午後の各2時間で、午前の部には5組16名・午後の部は7組18名のご家族が参加。生きたヘラクレスオオカブトや外国のカブト&クワガタの標本に子どもたちは興味深々でした♡

□石川塾のコミュニティ

～カブトムシ講座の企画から開催に関わって～

先日のカブトムシ講座はいかがだったでしょうか？この度、石川塾のワークショップに企画から関わらせていただく貴重な経験をさせていただきました。『昆虫文化を子供たちに伝える会』は相模原市城山を中心に、カブトムシの生態を子供たちに伝えることから、自然や里山の保護につなげていく活動している団体です。コロナ禍の影響で、昨年から講演や幼虫配布の場所がなくなり、活動の機会が減っていました。息子がカブトムシを好きで、採集や飼育について、以前にこの会にご指導いただいていた縁があり、私から石川塾に紹介させていただき、日程調整や下見の調整など関わらせていただきました。石川塾は、本当にこの企画にぴったりの場所でした。多様な好奇心をお持ちの塾生の方々がおり、短い募集期間にも関わらず大勢の方にご参加いただきました。その後、石川塾での成功をステップに、息子のこども園にも保護者会主催の活動として三宅さんをお招きして、ベニヤ板製のカブトムシの家(180cm×60cm×60cm)を制作し、幼虫86匹を入れました。そして飼育方法や採集方法についてのお話を自由参加という形で実施いたしました。全ての幼虫が園児の手(手袋着用)に握られて運ばれ、新しい家に引越しました。他のお母さんの話では、昆虫好きではないはずの子なのに「あの箱にたくさんカブトムシの幼虫がいるんだよ」と話しているそうです。触った、近くで見た、あるいは身近にある、という経験だけでも子供たちの心に残るものがあつたようで、成功だったかな、と感じています。三宅さんは「石川塾は普通の学習塾ではないのですね」と話していました。普段の勉強のご指導はもちろん素晴らしいですが、遠足やワークショップは家族にも楽しいですし、石川塾のコミュニティに参加できることは子供の成長だけでなく、家族としても勉強させてもらえる場所と感じています。

●バンリ君(年長)のお母さんからの VOICE■

●4月25日(日)宇宙ワークショップ開催しました♡♡♡

宇宙に詳しい村上豪先生をお迎えして、宇宙ワークショップを開催しました。年長児から中学生、大人まで総勢23名がご参加くださいました。

□宇宙ど素人の私が宇宙を身近に感じる事が出来た

～今、地球のために何が出来るか～

宇宙ワークショップ、とっても楽しかったです！今回のワークショップに参加したことで、宇宙を身近に感じる事ができました。そして、落ち着いていろいろなお話を思い出す中で、今、自分が地球のために何が出来るかなと、考えています。なぜ、宇宙ど素人の私が宇宙を身近に感じる事が出来たのかと言うと、お話しして下さった村上さんが子供達はもちろん、宇宙知識ほぼゼロの私のような大人にも楽しめるように、いろいろと工夫をして進行して下さいました。答えを知りたくなるクイズを用意して下さいたり、子供達の間、世間で流行りの YOU TUBER の中には宇宙 YOU TUBER として日本人宇宙飛行士の野口さんがいらっしゃるという話題や、なんと宇宙と地上は100kmしか離れていないという、まさに距離的にも身近な存在であることや、お話しして下さいた村上さんご自身が制作に携わったカメラが月に落ちていたり、水星探査機『みお』が宇宙に存在していたり…話をあげたらきりがありませんが、本当に楽しいお話、さらには、夕焼け、オーロラの再現までしていただき、今思い出しても感動と興奮で胸が熱くなります。また、村上さんのお話の仕方が本当に楽しそうに、うれしそうに、自分の大事な宝物をみんなにも見せてあげるね、という感じだったので、子供達も大人も、宇宙への第一歩を安心して踏み出す事が出来、身近に感じられたのだと思います。ワークショップの最後には、太陽系惑星が並べられた映像が映し出され、中でも瑠璃色の地球は本当に美しかったです。今、地球は私達人間のせいで、生態系は破壊され、動植物が絶滅、絶滅危機となり、世界各地で異常気象が頻発しています。このワークショップを通じて、私達が汚してしまった地球を、なんとかこの美しい地球を守りたい、私に出来ることって何があるのだろう、と真剣に考えたい程、宇宙に魅了されてしまいました。●ミヤコさん(小5)アマネさん(小1)のお母さんからの VOICE■



アンとアナのものがたい(成長日記)

☆アン(4年生): 毎週俳句を提出♡漫画サピエンスノート作り♡専科講座に次々チャレンジ♡

【算数検定8級合格♡『イッキに読める名作』中学生まで修了♡英検3級1次試験合格♡】



英検3級も、もう何度目のチャレンジか…テキストを変え、他の検定が重ならないよう計画し5月30日試験に挑んだ。今回は熟語とライティングを特に重点的に勉強し、試験当日朝もライティングの問題を一通り練習。試験では手ごたえを感じた様子。塾では、新たに毎週俳句をつくり提出している。季語のお題を使って感じるままに…。ゼミ通信にも掲載していただき俄然やる気だ。漫画講座では『サピエンス』のノートづくり。まとめ方に迷いながらも、少しずつ自分なりの方法を考えまとめている。次に取り組みたい漫画が気になり少し雑になっているが、おかげでサクサク進んでいる。理科講座も始めたいとのことで、塾が週3回、2時間ずつとなった。「イッキ読み」を終え、「ゼッタイこれだけ」も3年生まで修了。マンガ講座ともに要旨要約が今後充実してくることが楽しみである。家では、「スプリングン」というプログラミングにハマリ、ゲームを作ったり、デザインなどを楽しみ、本ではさくらももこの「もののかんずめ」シリーズにハマリ、文章を真似て自分のエッセイを書いている。読んでみたがなかなか面白い。集まったら、冊子にしてみよう…。

＜写真上: 漫画 サピエンス全史 人類の誕生編/ユヴァル・ノア・ハラリ/河出書房新社

写真下: 俳句歳時記 第五版 夏 /KADOKAWA＞

☆アナ(1年生): 1年生になりました♡電車通学にドキドキ♡漢字検定にチャレンジ♡

【漢字検定10級の過去問に取り組む♡『イッキによめる名作』開始♡英検5級の取り組み♡】



憧れの制服に袖を通し、パスモを握りしめての電車通学が始まった。新型コロナの影響で、電車は少し空いてはいるが、つかまるものもなく、一生懸命揺れをかわしながら踏ん張っている。毎日思いきり学校を楽しんで帰宅した後は、疲れて夜まで寝てしまうことも…。それでも、漢字検定や石川塾の課題は残したくないと、短時間で集中して終わらせる。塾では、同年代のお友だちとのおしゃべりやゲームが楽しく、なかなか課題が進まないが…お友だちが帰った後、やはり短時間で終わらせている。学校とはちがうお友だちとの時間が楽しみのひとつ。検定試験もお友達と一緒に頑張る。仲良しであり、ライバルでもあるような…勉強友だち♡お互いの進捗が気になるようで、いい刺激になっている。朗読暗唱はあと二つで第一部の課題が終了する。漢字の読みも、2年生まで修了。公文の課題も終え、『イッキによめる名作』の課題に入った。Z会のグレードアップ問題集を終え、漢字検定修了後は、算数も2年生へとステップアップする。英語検定5級対策も、毎日英文の音読や熟語の書き取りをし準備を進めている。サメ好きなアナは姉の真似をし、サメノート作成中♡出来上がりがとてもたのしみである♡

＜齋藤孝のイッキによめる! 名作選 1年生/齋藤孝(編集)/講談社

グレードアップ問題集小学1年算数 文章題/Z会指導部/Z会＞

アンとアナの本棚

『もののかんずめ』『たいのおかしら』『さるのこしかけ』

さくらももこ/集英社

『さんねんないきもの事典』

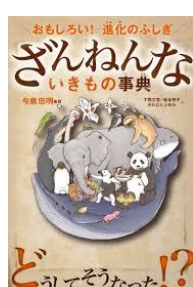
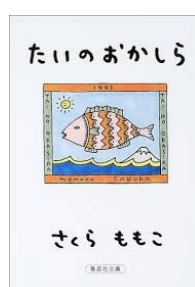
今泉忠明(監修)/高橋書店 塩谷京子(監修)/学研プラス

『10分で読める伝記 1年生』



『魔女の宅急便』

角野栄子/徳間書店



パパ日記 二人目の持ち主

上の子が小学校1年生の頃、公園でよく自転車の練習をした。言い合いながらも一人でこげるようになったときは自分も達成感があって下の子も一緒に練習しようと思った。この4月から下の子も小学生になったがまだ練習ができていなかった。これはまずいと思い急ピッチで練習を開始した。まずは後ろを支えながら走行する。「ちゃんと持っててよ」と言われながらもいつ支えをはなそうかとタイミングをうかがう。しかし相手も勘が鋭く、はなすとすぐばれて「持っててって言ったでしょ!」と怒られる。この繰り返し。たまに転んだりしながら(転んだときはどんな場合でもすべてパパのせい)、飽きて嫌になって遊具で遊んだりしてそれでも自走できるようになっていく。公園みたいな広い場所ならもう大丈夫そう。下の子には謝らないといけなことがある。タイヤカバーが割れていたりだいぶ年季が入ったお姉ちゃんのお古でごめん! 近々新しい自転車を買います。

●4 歳～6 歳クラス（年少～年長）／小学生クラス（小1～） 月曜と水曜と金曜 午後 3 時～5 時

●中学受験（小4～）・理科単元学習（小4～） 月（算数）水（理科）金（社会）午後 5 時～6 時

＜幼児クラス（就園児）の授業※親子で一緒に学ぶクラス＞

「～読み書き算数・思考力～」具体物を使って基礎から丁寧に♡小学校入学準備♡

- ◆石川塾では小学校に入学したときに、教科学習にスムーズに取り組めるように「かず」「りょう」「かたち」の概念が理解できるところから「すいり」まで、**学習の基礎を丁寧に**教えていきます。また、子どものつまずきや、理解度に合わせた指導をしていきます。**※年長で算数検定 11 級(小1レベル)合格できるように導きます。**
- ◆楽しみながら、リズムよく朗読暗唱♪日本地図・世界地図パズルでひらがな・カタカナの読み書きの練習♪絵本の音読学習♪白川静文字学に学ぶ漢字学習♪小学 6 年生までの漢字の読みを始めます♪

＜小学生クラス※最初は親子一緒に♪徐々にひとり立ちへ♪＞

「～読み書き算数・思考力・読解力～」すべての基礎は国語力♡たくさんの作品を読みます♡

- ◆石川塾では、学年に関係なく朗読暗唱♪学年の漢字の読み♪を優先して学習を始めます♪それもこれも国語力を高めるため♪漢字の書き取りでは、**6 年生で漢検準 2 級合格を目指し取り組んでいます♪**
- ◆本の要旨要約に取り組む準備として、「イッキによめる！名作選」「ゼッタイこれだけ！名作選」でクイズや好きな文章の抜き書きにチャレンジ♪
- ◆算数では、単元学習を推奨し一人ひとりに合わせた学習プランを用意します♪算数検定にチャレンジし先取り学習することもできます♪

＜中学受験・理科単元学習クラス※内容は生徒の状況により変更することがあります＞

「～読み書き算数・思考力・読解力・記述力～」やりたいこと♡やるべきこと♡をとことん♡

- ◆月曜日(算数):単元ごとの副教材を作成し、問題集に取り組みます♡やさしい問題からしっかりと♡
- ◆水曜日(理科):『生物・生命科学大図鑑』ノートづくり講座♡調べ学習でオリジナルノートを♡
- ◆金曜日(社会):『漫画 サピエンス全史』のノートづくり講座♡『サピエンス全史 上下』も読みながら♡

●「小学校受験サポート」年少から・時間はご相談ください

●2 歳～3 歳 ホームメイド・モンテッソーリ講座

●月曜と金曜 午前 10 時～12 時※親子で一緒に学ぶクラスです

子どもが自分から集中して何度も繰り返す行動をよく観察し、環境と指導を提供します。

◎教室にある 24 種類の教材を中心に、お子様の『敏感期』の成長を促す教材を提示♪

◎教材はご自宅でも取り組みができるよう、月に 1 度お母様と一緒に教材を作ります♪

◎ちょっとしたこと、気になること…子育て相談は、いつでも歓迎♪



子どもが何かを発見した時の“ニパッ♡” わかったときの
“ニコッ♡” と表情が輝く時間を体験しませんか。

生徒募集中！紹介者には謝礼あり！

体験授業は 3 回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

担当:ワタナベミツキ

★講師プロフィール:わたなべ みつき★2児の母(小学4年生:小学校受験/小学1年生:幼稚園受験/女の子2人)

★資格:(公財)日本数学検定協会認定資格「幼児さんすうインストラクター」/ホームメイド・モンテッソーリ認定講師

★他に看護師国家資格あり 大学病院・療養型病院に勤務経験★石川塾に7年前から親子で通塾し、石川塾長のノウハウを教わる★石川塾にて「ワークショップ」「Weekly・Monthly」「千の声 VOICE」を担当

子ども・お母さんたちが借りて読んでいる本（2020年9月～2021年2月）

2020年9月

ドラえものの理科おもしろ攻略
理科実験 Q&A

あなたのおへそ
昆虫世界のサバイバル
巨大空港
いろはいろいろ
これはすいへいせん
クリカテ クラク
単位物語
単位と比
たんい換算プリント
はるだはるだよ！10ぴきのかえる
おしりたんてい
おしりたんてい カレーなるじけん
スティーブ・ジョブズ①
スティーブ・ジョブズ②
スティーブ・ジョブズ③
未来イソップ
宇宙のあいさつ
なまけてなんかない！
ドラえものの理科おもしろ攻略 力と
電気、音、光がわかる

テルマエ・ロマエⅢ
テルマエ・ロマエⅣ
テルマエ・ロマエⅤ
テルマエ・ロマエⅥ
せつない動物図鑑
洞窟のサバイバル
海の史劇
ポーツマスの旗
絶滅鳥ドーダーを追い求めた男
英語で話そう① CD4枚
どうぶつ友情辞典
ドラえものの国語おもしろ攻略
すらすら作文が書ける

宇宙 講談社の動く図鑑 MOVE
ばいばいおっぱい
AI vs 教科書が読めない子どもたち
ぼくは犬や
わけのわかる算数のはなし単位と比
カラー 生物・生命科学大図鑑
未知への探求
やねの上の乳歯ちゃん
わけあって絶滅しました
ざんねないきもの事典
世にも美しい日本語
もっと しごとば大行進
101匹わんちゃん
ホーキのララ
ドラえものの理科おもしろ攻略

理科実験 Q&A

失敗図鑑 すごい人ほどダメだった！

2020年10月

新型ウイルスのサバイバル②
タイムトラベラー ウォーリーをおえ！
アマゾンのサバイバル
海のサバイバル
ミッキー ミニーのハロウィン
パーティー
へんしんマラソン
なぞなぞはじまるよ②
世界のともだち オランダ

世界のともだち ロシア
世界のともだち 韓国
美女と野獣
青い鳥

2020年11月

わたしの生涯
三陸海岸大津波
関東大震災
どうぞのいす
戦艦武蔵
Nのために
生まれたときからせつない動物図鑑
ぶたのたね
またぶたのたね
おしりたんてい あやうし
たんていじむしょ

はじめての感染症図鑑
せかいのともだち タイ
せかいのともだち ペルー
すってはいてよくうき
あがりめさがりめだいじなめ
数学ゴールデン
三国志メシ
恐竜世界のサバイバル
＜ツボ刺激＞の効果
裸のダルシン
またぶたのたね
あなたのおへそ
からすのパンやさん
図解 なんかにへんな生きもの
かいけつゾロリ つかまる!!
ドラえものの算数おもしろ攻略
文章題がわかる

わらべうたえほん あぶくたつた

2020年12月

ころちゃんのだんごむし
おしりたんてい ふめつのせつとうだん
おしりたんてい むらさきふじんの
あんごうじけん

ピンポンパス
恐竜世界のサバイバル②
せかいのともだち ブラジル
おいしいな！
やばい日本史
せかいのともだち モンゴル
自然史ミュージアムのサバイバル
ブリズンホテル①夏
ブリズンホテル②秋
おしりたんてい かいとうと
ねらわれたはなよめ
おしりたんてい あやうし
たんていじむしょ

世界の歴史
続々ざんねないきもの事典
こども六法
ノンタン！サンタクロースだよ
りゆうがあります
パパは脳研究者
子どもたちの階級闘争
理想の国語教科書
アマゾンのサバイバル
ブリズンホテル③冬
ブリズンホテル④春

すってはいてよくうき
南極のサバイバル
日本語が亡びるとき
日本の教師に伝えたいこと
教えるということ
教室をいきいきと①
教室をいきいきと②
ことわざ絵本
消えた女
使える！『徒然草』
感染症キャラクター図鑑
わたしのうとあなたのところ
やねの上の乳歯ちゃん
元素図鑑
失敗図鑑
move 宇宙
こども学問のすすめ
おしりたんてい カレーなるじけん
2021年1月
だるまさんが
やねの上の乳歯ちゃん
小学生を勉強好きにする父の役割、
母の役割

ごめんやさい
おしくらまんじゅう
日本の歴史①日本の誕生と国づくり
与謝野晶子
お母さんの「敏感期」
かいけつゾロリのなぞのうちゅうじん
タンタンタンゴはパパふたり
ボクは算数しか出来なかった
アンパンマン あいうえおカード
もうぬげない
しろくまちゃんのほっとけき
せかいのともだち トルコ
海
ブリニウス VII
ブリニウス VIII
胎児のはなし

2021年2月

やさいさん
こども武士道
東大合格生のノートはかならず美しい
まんが 日本むかし話 100話
三国志メシ
ドラえものの理科おもしろ攻略
理科実験 Q&A
ロボット世界のサバイバル②
ロボット世界のサバイバル③
ガラパゴス
きょうのおやつは
まんが 科学偉人伝
ドラえものの算数おもしろ攻略
文章題がわかる
齋藤孝のイッキによめる！小学生の
ための夏目漱石×太宰治

Nのために
せかいのともだち ルーマニア
フットボールネーション⑩
フットボールネーション⑪
ごめんやさい
スッキリ！
おぼけがぞろぞろ

<<石川塾の肝心要 ～生きていくための要旨要約～>>

□記述力を身につける“二千字”要旨要約(齋藤孝「使える!『徒然草』」より)

■「徒然草 第百十段」～勝とうと思うな、負けないようにしろ～

小見出し: **博才とは大勝ちする才能ではない**

本文抜書: 勝負事となると、誰でも勝ちたいという意識が先立ち、どうしても勝ちにいかうとしがちである。しかし、兼好は、勝負事の極意は、勝とうとするのではなく、負けないようにすることだと、こういつている。つねに勝てるわけではない。だから、**まず負けないようにすることが大事である**というのだ。博才とは、大勝ちする才能ではない。負けない打ち方ができることである。博才がある人は、つねに負けない戦い方をしている。負けないで続けていれば、ときには勝つことがある。そうやって長くやっていると、最終的には勝ち越せる。このことは勝負事全般にいえる。

小見出し: **負けを計算できる**

本文抜書: たとえば将棋の大山康晴と升田幸三の名勝負は有名な話である。二人はまったく対照的なタイプで、升田は新しい手をつくり出して大胆に攻めて華麗に勝つ。それに対して、大山はどうやったら負けないかという手を考え尽くし、堅実で負けない指し方をする。個人的には、私は、升田のように人が思いつかない手を考えて、攻めて攻めて攻めまくるという戦法が好きである。だが、勝負となると結局は負けない堅実な大山に軍配があがる。だから、兼好のいうことがいっそうよくわかる。野球にたとえれば、かつて西武を何度も日本一の座につけた森祇晶元監督である。森は、日本シリーズでは「すべてを勝とうとするのではなく、三つまでは負けられると思って戦う」と言っていた。最終的には第七戦で勝てばいいという考えで、**最初から負け試合を計算して勝負するわけである**。

●ナオキ君(小6)の要旨要約■

■「徒然草 第百十段」～勝とうと思うな、負けないようにしろ～

小見出し: **勝っているときは、やり方を変えない**

本文抜書: 「博打の負けが極まって、もう全部打ってしまおうというようなときは、打つのをやめろ。一度やめれば、いずれは続けて勝てる時がくると知るべきで、そのときを知るのがよい博打ちである」と、ある人がいつていた。つまり、**負けているときには勝負を一度やめて、頭に上っている血を冷ませ**というわけである。逆に勝っている場合には、その流れに乗ったほうがいい。ところが勝っていても、やり方を変えてしまう人がいる。あるいは、いませっかく乗っている時期なのに、自分から引っ込んでしまう人がいる。波に乗っているのにもかかわらず、結婚などを機に一回引っ込んでしまう人がいる。すると、しばらくして復帰したときには、すでにその波は引いてしまっていて、いくら頑張ってもすっかり人気なくなってしまう。たとえ実力があっても、一度波が引いてしまうと、そのときの人気はもう流れ去ってしまっている。流されるときはとりあえず流されておいて、**流れが自分にきたと思ったときに、思い切って泳ぐ**。

小見出し: **下支えをつくっておく**

本文抜書: 仕事というものの勝負と同じで、勝負勘が必要である。勝ちが見込めるときには、徹底して勝ちに行く。しかし、見込みが立たないときには、負けたときにどうするのかをつねに考えておかねばならない。どうしたら勝てるかということばかりでなく、**負けたときの対処法こそが重要なのだ**。たとえば、儲かっているときはいいが、赤字になるとどんどん借金してしまうという会社や人がいる。ところが、実際には勝ち続けることなど、まず不可能であるから、どんなに好調であっても、やがては不調の波におそわれることになる。調子のいいときにこそ、ハイリスク、ハイリターンではなく、ローリスク、ローリターンで手堅く、負けないようにする。多少余裕があって、負けを計算できるならば、ローリスクでせいぜいミドルリターンを狙うくらいでちょうどいいのだ。勝とうとばかり意識せずに、負けない戦いを続けて、辛抱強くチャンスを待たなくてはならない。そしてチャンスがきたら、思い切って勝負する。勝負どころをわきまえて、出るときは出る、引くときは引くというタイミングこそ重要である。●ミオさん(中3)の要旨要約■

第百十段:勝たんと打つべからず。負けじと打つべきなり。

[意味]勝とうと思って打ってはいけない。負けまいと打つことだ。

□記述力を身につける 20+200 字要旨要約文(齋藤孝「理想の国語教科書」青版/赤版/緑版より)

■夏目漱石「夢十夜」(齋藤孝「理想の国語教科書」第1巻より)

一文要約: **死んだ女が白い百合になって男に会いに来る話。**

本文抜書: こんな夢を見た。仰向けに寝た女が、もう死にますと云う。女がこう云った。「死んだら、墓の傍に待っていて下さい。また逢いに来ますから」何時逢いに来るかねと聞いた。女は百年待って下さいと云った。女が閉じた。もう死んでいた。勘定しても、しつくせない程日が頭の上を通り越して行った。すると青い茎が伸びて瓣を開いた。真白な百合が匂った。自分は空を見たら、星が一つ瞬いていた。百年はもう来ていたんだと気が付いた。●ヒロカズ君(中2)の要旨要約■

■夏目漱石「私の個人主義」(齋藤孝「理想の国語教科書」第3巻より)

一文要約: **自分の幸福のためにどんな犠牲を払っても突き進むことが大事だという話。**

本文抜書: ああここにおれの進むべき道があった! ようやく掘り当てた! 心の底から叫び出される時、あなたがたは始めて心を安ずる事が出来るでしょう。もし途中で霧か靄のために懊悩してられる方があるならば、どんな犠牲を払っても、ここだという掘り当てる所まで行ったら宜かろうと思うのです。あなた方の御家族のために申し上げる次第でもありません。貴方がた自身の幸福のために、それが絶対に必要じゃないかと思うから申し上げるのです。●ミオさん(中3)の要旨要約■

<<読み書き算数 石川塾 からの VOICE>>

●NEW♡ 社会に貢献できる力を高める文章検定を開催♡●

♡論理的に思考する力・他者を理解し協働する力・効果的に表現する力を育てます♡

●書けない人は書けるように♡書ける人ももっと書けるように●

♡資料や文章を正確に読み取り、自分の考えや意見を的確に表現する能力を育てます

◆中学受験・高校受験・大学受験・就職試験を考えている人に特におすすめです

♡各々のレベルに応じて4級から2級まで石川塾で受験することができます

◆大学受験では、文章検定を評価対象にしている大学があります(お茶の水女子大学・東京農工大学・東洋大学・日本大学・法政大学・明治大学・早稲田大学・金沢大学・信州大学・同志社大学・大阪府立大学・関西大学・近畿大学・甲南大学・広島大学 など)

※8/24が最低開催人数10名に満たない場合は10/30に繰り越しますので御了承ください。

◆(団体受験)日程・申込×切

(第1回)8/24火曜/申込×切7/26・(第2回)10/30土曜/申込×切10/1

※団体受験は1年度6回実施されます(石川塾では2～3回予定)

※個人受験は1年度1回のみ2022年2月13日に実施されます

◆使用テキスト●基礎から学べる! 文章カステップ 文章検4級～2級



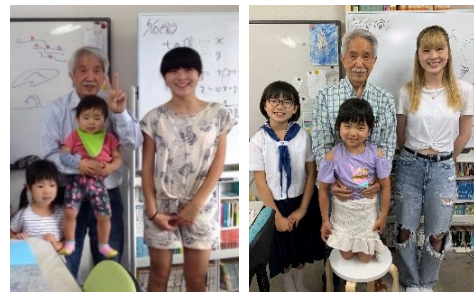
日本漢字能力検定協会 (編集)/ 日本漢字能力検定協会

目次

- 第1章 語彙・文法
- 第2章 資料分析/レポート
- 第3章 文章読解/要約
- 第4章 手紙文
- 第5章 意見文/論説文
- 巻末 まとめ問題

兄弟・弟妹・お友だち・塾生以外も受験できます♡

お申し込み・お問合せは石川塾まで♡電話 042-710-5768



<左:5年前><5年後現在小4・小1・古希・高2>

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からの VOICE●6月に入り生徒たちも進級してから約2か月が経ちましたが、学校生活には慣れましたでしょうか。私も石川塾でスタッフとして働き始めて約8か月が経ちました。生徒たちからはたくさんの新しい知識と知恵、そして笑顔をもらいます。これからもここで得た知識や知恵を無駄にせず、生徒たちと和やかに触れ合えるようがんばりたいと思います! (上掲写真)

●編集長・渡邊光樹からの VOICE●特集では、第一線で活躍する科学者たち12人の中から3名を取り上げ紹介した。どう挫折を乗り越え「今までにないもの」を生み出してきたのか。たくさんの人生を知ることは、自分自身を豊かにし、自分の仕事や人生を見つめ直すうえで、新たな視点を得られる。これからの未来を担う子どもたちへ…自分の人生を豊かなものにしたいすべての人たちへ…/“世界のともだち”をまとめていただいた宮井京実さんをはじめ中学受験の記の岩田京子さん橋本紘美さんほか保護者塾生の方々からたくさんの原稿をいただいております、皆様に心より感謝申し上げます。

□週刊でホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からの VOICE●「理系という生き方」:東京工業大学で毎週金曜1限に最相葉月氏が12人から研究テーマを聞くユニークな授業4か月の講義録/石川の12人:最相葉月「星新一」(父・星一/祖父・小金井良精)→星新一「明治・父・アメリカ」(星一/野口英世)→福岡伸一「生物と無生物のあいだ」(野口英世)→星新一「祖父・小金井良精の記」(祖母・森鷗外の妹)→小金井喜美子「森鷗外の系族」→六草いちか「鷗外の恋」→関川・谷口「坊ちゃんの時代」■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2021年 夏号「千の声 VOICE」第13号>令和3年6月25日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768